

聖母女学院短大 ○別府庸子 伊東理恵 澤田寿々太郎 福井美穂

目的 通信技術とエレクトロニクス技術の結晶としてのニューメディアは、夢多き高度情報化の推進役として期待を寄せられている。しかし、一方では情報過多・情報洪水が問題となってきた現在の現在、はたして、これ以上の情報がニューメディアによって提供される必要があるのだろうか、家庭生活者の立場からの再考を要する。そこで、この研究では、まず、情報がいかなる媒体によって提供されるかを問題とせず、家庭生活者が家庭生活の幸福のために必要としている情報はどのような情報であるかを把握し、その上で改めて、それがどのような形で提供されるのが望ましいか、その中でニューメディアの果たすべき役割は何であるかを検討することを目的とする。

#### 方法 アンケート調査

対象 : 聖母学院小学校に児童のいる家庭 ; 回答者: 主な家事従事者(主婦)

設計標本数: 804標本 ; 回収標本数: 601標本(回収率74.8%)

調査方法 : 質問票を児童を通じて配布し、児童を通じて回収(留置自記式)

結果 情報が氾濫している中で、家庭の主婦は、信頼できる的確な情報を手軽に入手することを望んでいる。したがって、ニューメディアが真の意味でこのニーズに応えるものとなれば、家庭生活に重要な役割を果たすことになる。必要としている情報がごく身近なものであるということは、主婦にとって共通していえることである。しかし、家庭のニーズにあった情報提供にあたっては、関心の領域・度合い、活用能力により類別して考えられねばならない。